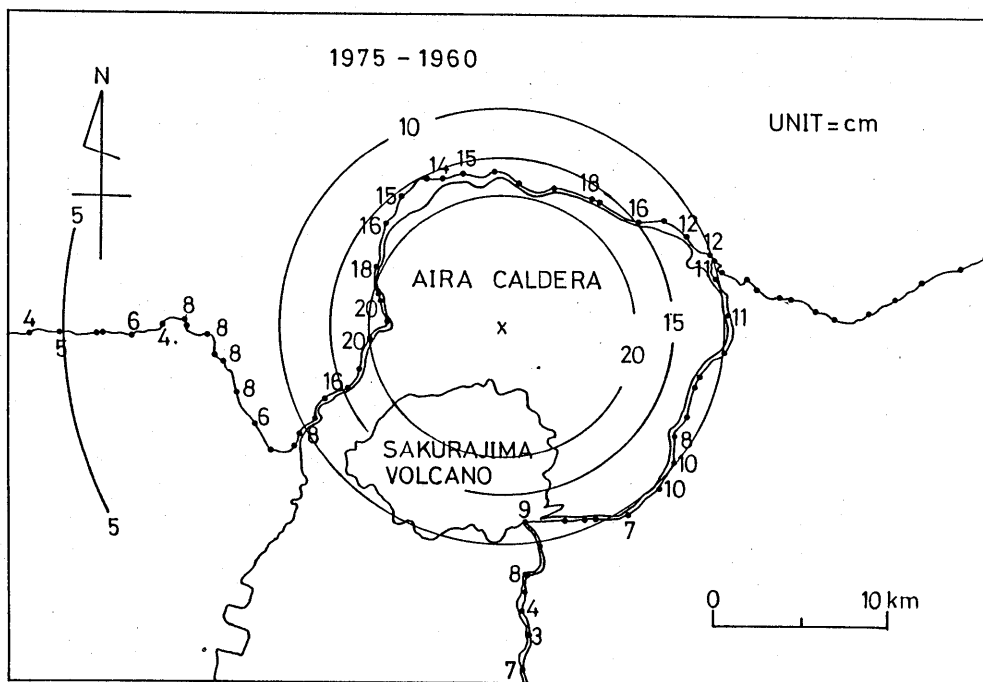


# 始良カルデラ周辺の上下変動\*

国土地理院

始良カルデラ周辺において過去に実施された水準測量結果をまとめ、カルデラ周辺の上下変動の時間変化について報告する。第1図は、1960年から1975年の15年間の上下変動である。変動値は、宮崎市にある交2751-1を不動と仮定して計算されたものである。この時期は、カルデラ全体が最大20 cmも隆起しており、その中心は図中の×印付近に求められる。第2図は、同じ仮定のもとで得られた1975年から1987年の12年間の上下変動である。前期とは逆に、カルデラ全体が最大9 cm 沈降している。沈降の中心は図中の×印と考えられる。第1図の隆起の中心と第2図の沈降の中心が、ほぼ同じ位置であることから、桜島火山へマグマを供給するマグマ溜りがこのあたりにあり、1975年以前インフレーションしていたものが、その後デフレーションに転じたものと考えられる。

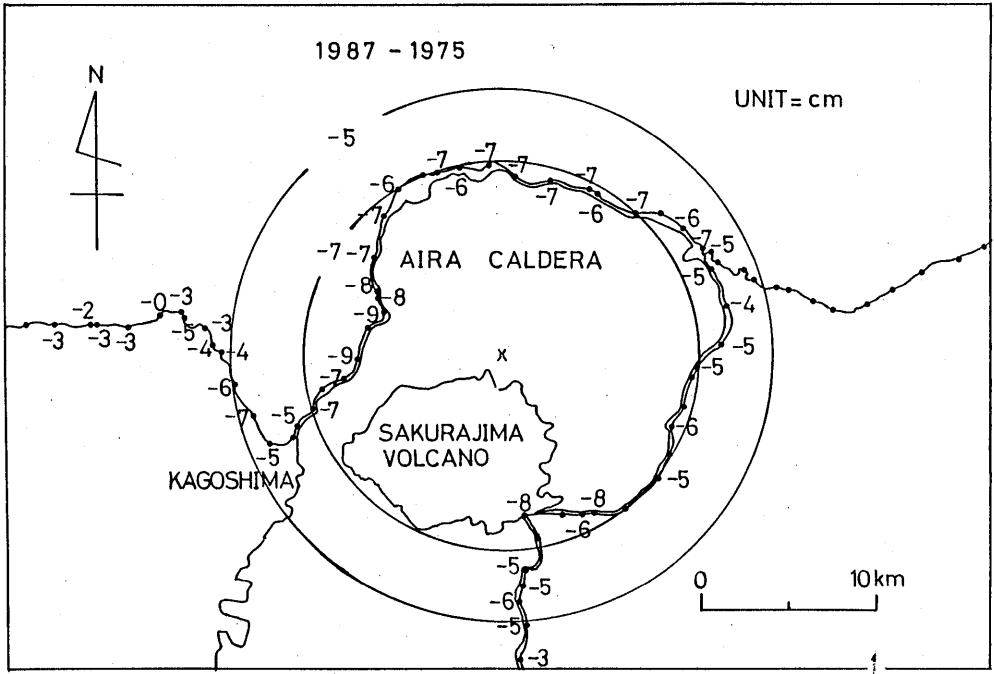
第3図は、鹿児島と油津、枕崎、大泊の各験潮場間の月平均潮位差を示している。1978年頃から鹿児島は、他の験潮場に対して沈降傾向にあり、水準測量の結果と調和的である。



第1図 1960年から1975年の期間における始良カルデラ周辺の上下変動。  
不動点交2751-1(宮崎市)

Fig.1 Elevation changes in and around the Aira caldera during the period from 1960 to 1975 referred to J2751-1 in Miyazaki.

\* Received Dec. 16, 1988

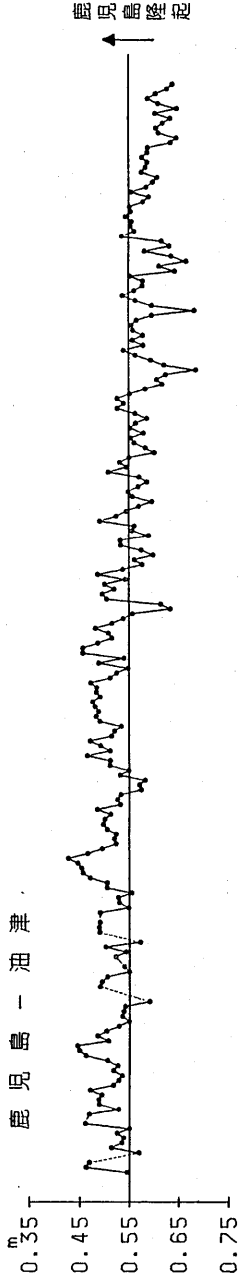


第2図 1975年から1987年の期間における始良カルデラ周辺の上下変動。  
不動点交2751-1(宮崎市)

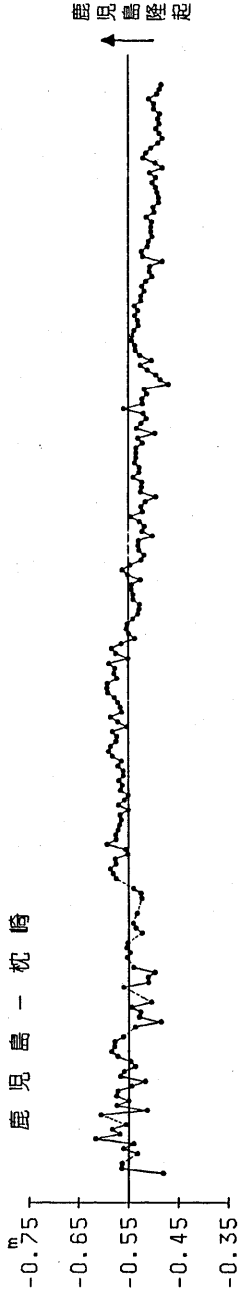
Fig.2 Elevation changes in and around the Aira caldera during the  
period from 1975 to 1987 referred to J2751-1 in Miyazaki.

1970 1971 1972 1973 1974 1975 1976 1977 1978 1979 1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988

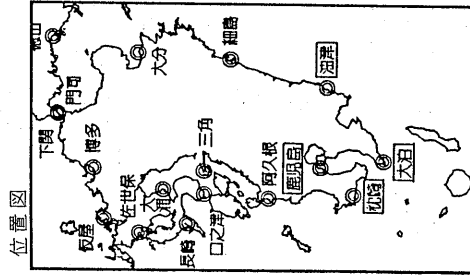
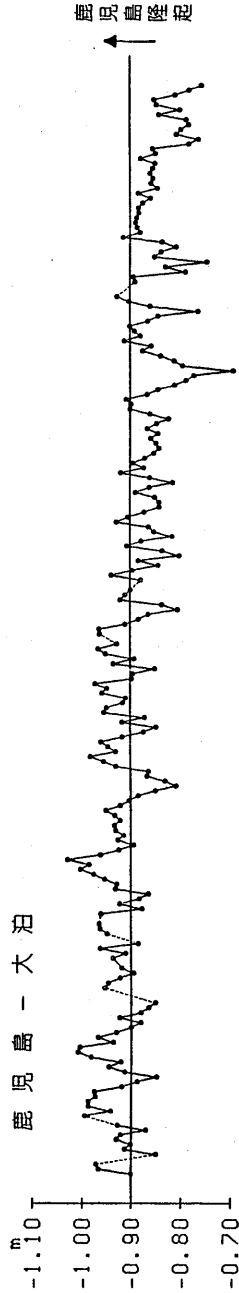
鹿児島 - 油津



鹿児島 - 枕崎



鹿児島 - 大泊



位置図

第3図 鹿児島と油津, 枕崎, 大泊潮場間の月平均潮位差。  
(海岸昇降検知センサー「潮位年報」による)

Fig. 3 Differences in monthly mean sea levels between Kagoshima and Aburatsubo, Makurazaki and Oodomari tide stations.